

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700062		
法人名	株式会社 ホームケアサービス山口		
事業所名	グループホーム のんびり村 米川		
所在地	山口県下松市下谷字砂の本179		
自己評価作成日	平成27年8月30日	評価結果市町受理日	平成28年9月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人個人の楽しみや生きがいを見出し、支援していく事を大切にしています。又、社会との繋がりを切らないよう、米川ならではの地域性を活かし、年間を通じての行事やイベントに積極的に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、地域の小学校の入学式や卒業式、運動会、授業参観日などに参加され、児童や地域の人と交流しておられます。小学校の玄関や郵便局のロビーに、利用者の作品を展示され、利用者は郵便局に立ち寄って、展示作品を見られたり、地域の人との交流の場とされています。事業所の秋祭りにはチラシの配布から、祭りの準備や後片づけまでボランティアの人が支援しておられます。運営推進会議の中で、メンバーから出された提案を活かされて、民生委員の会議やいきいきサロンの場に、管理者が出むかれて、事業所について話しをされ、住民の理解につなげておられます。近所の人が花や野菜や栗、干し柿、きのこなどの差入れに来訪され、利用者と一緒にお茶を飲まれたり、おしゃべりをされているなど、日常的に交流しておられます。利用者一人ひとりの楽しみことやできることを把握され、個別の外出や外食の支援や、多くの活躍できる場面をつくられて、利用者が喜びや張り合いのある暮らしができるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に、地域活動に積極的に参加をして、地域の人々に信頼を得ている。	全体会議で話し合い、「地域と共に楽しく生活」という事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。ミーティングや日常業務の中で理念の意識づけをして共有し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公共施設との連携を取り、行事等への参加をして交流している。又、事業所自体が自治会へ加入し、地域の清掃やボランティア活動に参加している。	事業所は地域の自治会に加入し、職員が清掃作業に参加している。利用者は地域の小学校の入学式や卒業式、運動会への参加に加えて、今年度から毎月1回ある授業参観にも交代で参加して、児童や地域の人と交流している。利用者の作品を小学校の玄関や郵便局内に展示してもらっている。ハーモニカ演奏やゴスペル、漫談などのボランティアの来訪がある。地域の行事(どんど焼き、地蔵祭り、神社の祭りなど)に参加している。事業所の秋祭りには、地域のボランティアの協力があり、チラシの配布から祭りの準備や後片づけなどの支援を得ている他、地域の多くの人の参加がある。日常的に近所の人が花や野菜、栗、干し柿、きのこなどの差入れに来訪し、利用者と一緒にお茶を飲んだり、おしゃべりをして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流時に認知症の方に対する質問や相談を受ける事がある為、その都度対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	取り組み状況等の報告や話し合いの中で頂いた意見や提案を速やかに生活の中に活かしている。	ミーティングで、管理者が評価の意義について職員に説明し、ガイド集で項目の理解をしたうえで、職員間で話し合って自己評価したものを、前管理者と現在の管理者、計画作成担当で話し合ってまとめている。自己評価の過程で、業務を優先して利用者に接しているのではないかと課題がみつき、利用者の思いに寄り添うケアについて話し合う機会となったと捉えている。前回の外部評価結果を受けて、全職員で話し合い、事業所独自の理念を作成しているなど、評価を活かして改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方から意見を頂き、相談しながら取り組んでいる。	新たに自治会長と子ども会会長の参加を得て、会議を2ヶ月に1回開催している。事業所の取り組みや利用者の活動状況などを報告して意見交換している。メンバーからの提案を受けて、地域の人に事業所について正しく理解してもらうために、民生委員の会議の場や地域のいきいきサロンに出向いて説明し、住民の理解につなげている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、ケアマネ共に、担当者との連絡を電話や直接訪問し合う等し、良好な協力関係にある。	市の担当者とは、電話や出向いて情報交換したり、相談をして助言を得るなど協力関係を築くように取り組んでいる。災害時の避難方法についても市の担当者と話し合っている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議で情報交換している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則、身体拘束をしない事をご家族に伝え了承を得ている。階段は危険な為、エレベーターを使用してもらうよう張り紙を行っている。	職員は法人研修で身体拘束について学んでいる他、毎月の全体会議や毎日の申し送りでも話し合い正しく理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。気づきがあれば、管理者が注意している。日中、玄関の施錠はしていない。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に社内研修として虐待についての研修を行っている。また、声掛けによる虐待にかんしては、ミーティングやカンファレンス等で個別に対応している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についてはなかなか学ぶ機会をつくれていないが、権利擁護に関しては学ぶ機会を作り、日常的にも職員達と話し合っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の特性や性質を利用者やご家族に納得して頂けるまで何度も時間を作って頂き、説明して理解を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族からの要望や苦情を受けた時は、必ず管理者やケアマネに報告し、速やかに対処している。内容によっては、保健者へも報告をし、意見をもらいながら対処を行っている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に周知している。電話や面会時に家族から意見や要望、苦情などを聞いている。運営に関する意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やカンファレンス時に、職員で話し合い、良い意見は、代表者へ管理者より報告し運営に反映させている。	月1回の全体会議や毎日の申し送り時、申し送りノートの記録などで、職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で、管理者や計画作成担当者が聞いている。職員を増員してほしいという要望があり、代表者に報告して改善に取り組んでいる。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自社は働きやすい職場作り、能力を十分に発揮できる環境づくりを念頭に行動計画を策定している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自社は研修計画を立て、人材育成に力を入れており、職員一人ひとりが法人内外の研修を受ける機会が増えている。	外部研修は、職員の段階や経験に応じて、必要な研修に参加できる機会を提供し、5名の職員が受講している。受講者は復命研修をし資料を閲覧できるようにして、全職員で共有している。毎月の法人研修では、認知症、接遇、虐待、身体拘束、土砂災害などについて受講している。内部研修で年2回、緊急時の対応（ノロウイルスやインフルエンザ）について学んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種勉強会や研修への参加を提供し、情報交換や交流の機会を作っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に必ず本人と面接し不安や要望を聞き、どういう支援が必要か話し合っている。その後も、コミュニケーションを図り関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と情報交換しながら、本人様に寄り添う介護をしている。入居時、ご家族にアセスメント(趣味や趣向等)の記入をお願いし、得た情報を元に個人対応を行っている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族と相談しながら、今必要な支援の対応をしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に食事やおやつ作りを行い、共に協力しあう関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅の事が気になる等の訴えがある時は、ご家族に連絡を取り一緒に本人の自宅へ行ってもらったり、顔を見せに来て頂いたり協力をお願いしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時友人と過ごす時間を大切にしたり、馴染みの場所への外出等行っている。	友人や知人、親戚の人などの来訪がある他、手紙を出す支援をしている。散歩で自宅へ帰宅する支援をしたり、自宅周辺のドライブなど、利用者の馴染みの場所に出かける支援をしている。家族の協力を得て、墓参りや買い物、外食、外泊など、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しい方の自己紹介の場を作ったり、フレンドリーに向き合えるような支援をしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方ともこれまでの関係性を大切にしており、ご家族の相談にもものっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族様とコミュニケーションをとり生活歴の把握をし、希望や今までの生活歴と同じ生活が出来るよう努めている。	入居時の基本情報や「好きなことアセスメントシート」を活用している他、日常の関わりの中で利用者から聞き取ったことや様子などを経過記録に記録して思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族に聞いたり、担当者会議で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人への聞き取りやご家族の協力を得て情報をファイルに集め、職員は目を通して把握している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの表情や行動を記録に残し、職員は目を通し本人のペースを把握している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開き常に介護計画を見直し、ご家族にも同意を得ている。	利用者の思いや家族の意向、主治医や看護師の意見を参考にして、カンファレンスを開催し、管理者や計画作成担当者、利用者を担当している職員を中心に、その場にいた職員も参加して話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎の担当者会議で、モニタリングを実施し、期間に応じた見直しや、利用者の状態の変化に応じて、その都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成してる。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的なカンファレンスを開き、日々の変化を担当職員よりケアマネに伝えている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日には好きな事をしていただく事と、出来る限り希望に沿えるよう買物やドライブ等している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流は盛んで、日々の散歩に郵便局に立ち寄り作品の発表の場の協力も得ている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご自宅に住まれていた時のかかりつけ医に定期的に受診している。	利用者一人ひとりのこれまでのかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医としている。利用者個人で月2回の訪問診療を受けている人や、協力医療機関からも月2回の訪問診療がある。家族の協力を得ての受診の際には、職員が個人の日常の記録や必要な情報をかかりつけ医に提供している他、訪問診療の受診時の情報を伝え、医師との連携を図っている。受診後の情報は、家族に報告し、業務日誌や経過記録、医療ノートなどに記録して、職員間で共有している。訪問看護師が月2回来訪し、利用者の健康管理や職員の相談を受け助言している。緊急時は訪問看護師や協力医療機関と連携を図っているなど、個々の利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への口頭の連絡や、電話での連絡、医療ノートで連携を取っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時スタッフが付き添い、個人ファイルによる日頃の様子、体調の変化の情報を伝えている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、現時点で当施設で出来る事をご家族に説明し理解を得ている。	重度化や終末期に事業所でできる対応について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族や主治医、関係者等で話し合い、今後の方針を決めて共有し、支援に取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	誤薬を防ぐためのダブルチェックを取り入れたり、ヒヤリハット、事故報告書を作成、検討会も行い、職員全てが目を通し確認、把握している。	事故、ヒヤリハット報告書に、その場にいた職員が事故やヒヤリハットの発生状況や対応策を話し合って記録し、申し送りなどで職員間で共有している。法人の安全委員会で報告し、内容の検討や助言を得て、一人ひとりの事故防止に努めている。ノロウイルスの嘔吐物の処理方法について、全職員が実践訓練をしてる。応急手当や初期対応について、マニュアルを全職員に配布しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	土砂災害の訓練、夜間帯の避難訓練を行い指導を受けている。	年2回、消防署の協力を得て、昼夜間を想定した通報、消火、避難訓練を実施している。運営推進会議で、災害時の地域の対策について話し合い、緊急連絡網への地域の人の加入がある他、土砂災害時について、市や消防署と話し合い、避難方法を取り決めているなど、地域との協力体制を築くように取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに敬意を持って言葉かけをし接している。	法人研修で学び、人格尊重やプライバシーの確保について、職員は正しく理解している。全職員に対して「介護についてあなたが大切にしていることは何ですか」というアンケートを実施してる。「ゆっくりと相手の言葉を聞く」「ひとりの人として、その人を尊重する」などの答えがあり、自分がされていやなことはしないで、その人のペースを大切にしたい支援に努めている。利用者を人生の先輩として敬意を払って接し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞き、可能な限り実行している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何かの度に利用者様に声を掛け、ご本人の希望に沿うよう努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度散髪の日があり、本人の希望で3か月に一度のペースでカラー染めをしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の日を設け、利用者様にも食材を切ってもらったり、食器を洗ってもらったりしている。	事業所でご飯と朝食の汁物をつくっている他は、法人の配食を利用している。月3回、料理の日を設けて利用者の希望を聞いて献立を立て食事づくりをしている。利用者は、野菜の下ごしらえや調理、下膳、食器洗い、テーブル拭きなど、できることを一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで職員は持参した弁当や同じものを食べて、会話しながら支援している。個別での外食支援や、家族を招いて秋祭りやお楽しみ会で出前を取って一緒に食事をしたり、家族との外食など、食事を楽しむことができるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に食事摂取量、水分摂取量を記録し、利用者様の状態に注意を図っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは習慣になっているが忘れておられる時は声掛けし、介助の必要な方は介助して行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	車椅子の方も声掛けしトイレの手すりを使って頂き自立支援に努めている。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた声かけや誘導で、トイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の散歩、体操をし、自然排便に繋がるよう心掛けている。難しい場合は腹部マッサージ等行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間や曜日は決めているが、利用者本人の気分や体調、男性職員が苦手な利用者様等、個々に応じて入浴日を変えている。	入浴は、月曜日から土曜日まで毎日、14時から16時まで可能で、利用者の希望や体調に合わせて、週2回は入浴できるように支援している。入浴したくない利用者には、言葉かけの工夫や、日にちを変更したり、職員が交代するなどして、入浴ができるように対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前に居室で音楽を聴いてもらったり、お気に入りのぬいぐるみを抱いて寝て頂いたり、今までの生活習慣に合わせている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を皆が見られるようにしている。一人ひとりの排便状況を把握し、医師の指示のもと、排便コントロールしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	郵便局や小学校に掲示物コーナーを設けて頂き、作品を飾りに行っている。	テレビやDVD(映画)の視聴、移動図書館で本を借りて読む、新聞や雑誌を読む、ビニールひもを利用した手工芸、縫い物、ぬり絵、貼り絵、折り紙、体操、散歩、買い物、地域行事への参加、小学校の入学式、卒業式、運動会、参観日などへの参加、ドライブ、ボランティアとの交流、洗濯物たたみ、花の水やり、調理、下ごしらえ、食器洗いなど、利用者一人ひとりの楽しみごとや活躍できる場面をつくり、喜びや張り合いのある暮らしができるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公民館に来る移動図書に職員と本や紙芝居を毎週借りに行っている。	散歩や買い物、地域行事や小学校行事への参加、花見(桜、紫陽花、つつじ、コスモス、彼岸花、紅葉など)、蛍見物、クリスマスイルミネーション見物などの他、個別の外出や利用者の希望に合わせての外出、家族の協力を得ての外出や外出など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日帰り旅行の際にも、自ら友人へのお土産等選んで購入して頂いている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人に手紙を出したい時にはすぐに近所の郵便局を利用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に月ごと、季節ごとに職員と利用者で展示物を作成し、飾り付けしている。	自然の光が差し込んで明るい共用空間には、季節の花を生けたり、壁面には利用者と職員で作成した季節に合わせた作品を飾り、季節感を採り入れている。窓際に大きなソファやソファベッドが置いてあり、利用者が日向ぼっこをしながら会話を楽しんでいる他、廊下に畳の長椅子を配置し、利用者一人ひとりの居場所づくりをしている。ベランダに洗濯物が干してあったり、食事の匂いや準備の様子が見えて生活感が感じられるように工夫している。温度や湿度、換気や音などに配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを設置し、利用者同士でコミュニケーションがとれるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の方に気に入っていたぬいぐるみや小物、家具等を持ってきて頂き、安して過ごせるよう努めている。	テレビ、ラジオ、CDラジカセ、ロッキングチェア、テーブル、机、椅子、衣装ケース、時計、カーペットなど使い慣れたものや、好みのものを持ち込み、絵や家族の写真、花、カレンダーなどを飾り、季節ごとに家族と室内の模様替えをしているなど、本人が安心して居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の手すりを利用し出来る方には声掛けし立位が取れるよう支援している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 のんびり村米川

作成日： 平成 28 年 9 月 8 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が緊急時や事故発生時の初期対応や 応急手当等の実践力を身につけられていな い。	全職員が緊急時に対応できるようになる。	・引き続き定期的な研修や訓練を全職員が行 い、グループで実践し学ぶ。 ・年4回の法人内の安全委員会で、事例を報告 や相談をし、助言を基に現場で事故防止に努 める。 マニュアルを見直し、作成。	1年
2	36	災害対策として昼夜を問わず利用者が避難で きる方法を全職員が身につけていない。	全職員が安全に避難する方法を身につけ、 地域、関係施設との協力体制をより一層築 く。	・運営推進会議等を利用して定期的に防災訓 練を行い地域、関係施設との協力体制を築く。 ・マニュアルの見直し、作成。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。